

【社会】 <小学校 第6学年>

1 結果のポイント

- 「日本の歴史」について、「古墳時代」から「明治時代」の各時代についての用語やその意味の理解、資料から読み取る力をみる問題の正答率は、80%を上回っているものが多い。
- 各時代を代表する人物や歴史上のできごとを手がかりとして、時代の流れを考える問題や、大日本帝国憲法を複数の資料から選択する問題の正答率は、60%を下回っている。
- 「古墳時代」の社会の様子を地図の分布等から読み取る問題の正答率は、75%を上回っている。
- 鎌倉時代の政治の中心地について、地図を活用してその位置の理解をみる問題の正答率は、昨年度より上昇したものの、なお60%を下回っている。
- 江戸時代と比べて、明治時代に文明開化によって新しく生まれたものや変化したものを資料から読み取り、その変化を適切に表現する問題の正答率は、80%程度である。
- 豊臣秀吉が、天下統一において果たした役割を、キーワードを用いて表現する問題の正答率は、50%を下回っている。

2 結果の分析

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

<問題> [2]の3 [6]の2

[2] 3 Bのカードの「法隆寺」にあてはまるものをア～エの中から一つ選び、その記号を[]の中に書きましょう。(Bのカードのタイトルは「天皇中心の国づくりを目指した聖徳太子」)
ア 東大寺 イ 日光東照宮 ウ 法隆寺 エ 銀閣

[6] 2 次の「すべての国民は平等であるとし、身分にかかわらず職業や住む場所を選べるようにする。」(年表中の文章) ア 身分制度が改められる(四民平等) イ 廃藩置県が行われる
ウ 学校制度ができる エ 徴兵令が出される

<結果> [2]の3 正答率 75.8% (正答…ウ) [6]の2 正答率 66.5% (正答…ア)

<分析>

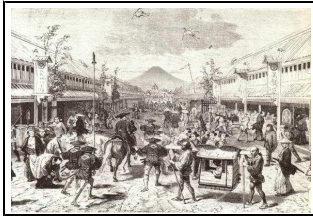
[2]の3「飛鳥時代(聖徳太子)のカードに該当する法隆寺」を選択する問題の正答率は75%を上回っている。同様に、[1]の1「大和朝廷という言葉の理解」[2]の1「源氏物語の作者が紫式部であることの意味」の正答率も80%を上回るなど、「知識・理解」をみる問題の正答率の平均は70%を上回り、用語とその用語の意味の理解はおおむねできていると考えられる。しかし、[2]の3の誤答を分析すると、大半がアの東大寺を選択している。これは、カードの「天皇中心の国づくり…」の言葉から、天皇を聖武天皇ととらえて、東大寺を選択したと考えられる。「大陸文化の摂取～聖徳太子～」「大化の改新」「聖武天皇と大仏造営」といった人物や事例の学習を通して、「天皇を中心とした政治が確立されたことが分かる」という学習指導要領の内容を踏まえて、用語とその用語の意味、時代の大きな流れなどを理解できるようにする必要がある。

[6]の2「明治政府の改革とその内容」の理解をみる問題は、正答率が70%を下回っている。誤答では、イ、ウ、エが同じように選択されていることから、廃藩置県や四民平等などによって近代的な政治や社会の仕組みが整ったことが十分に理解されておらず、近現代史の学習が十分に行われていないという課題があると考えられる。また、問題文中の「すべての国民は平等であるとし、身分にかかわらず職業や住む場所を選べるようにする。」に示されている改革の内容を正確に読み取り、該当する言葉を選択することができていないなど、資料の読解力にも課題があると考えられる。

[4]の1「織田信長と宗教(ザビエル)のかかわり」の理解をみる問題の正答率も60%を下回っている。昨年度に引き続き、人物とその業績についての理解は課題である。その人物が行ったことを調べ、言葉として理解するだけでなく、人物に対する興味・関心を高め、その人物の働きや業績が、どんな内容であったのか、その時代にどんな影響を与えたのかなどを調べ、考え、理解を深めるような指導の工夫が必要である。

(2) 「観察・資料活用・表現」の力をみる問題の例

<問題> 6の4 6の3



6 4 三郎さんは文明開化で人々のくらしや町の様子が江戸時代と比べて大きく変化したことを発表しました。あなたなら、どのように発表しますか。
下の資料から、ちがいを一つあげて、それがどのように変化したのかを具体的に書きましょう。

6 3 年表中の下線②(大日本帝国憲法)の内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を の中に書きましょう。
ア 大日本帝国憲法の条文 イ 五箇条の御誓文の条文
ウ 17条の憲法の条文 エ 学問のすすめ(一部抜粋)

<結果> 6の4 正答率 77.9%(正答…略) 6の3 正答率 38.0%(正答…ア)
<分析>

6の4「資料から明治になって新しくなったものや変わったものなどについて読み取り、表現する力」をみる問題の正答率は、77.9%で、昨年度の類似問題と同程度である。無解答は、2%(昨年度の類似問題の無解答は3%)である。4の3「豊臣秀吉が全国統一にどのような役割を果たしたかを考え、キーワード(身分)を用いて自分の考えを表現する力」をみる問題の無解答は、10%(昨年度の類似問題の無解答は13%)である。表現する力については、改善されてきているが、十分に身に付いていない。誤答を分析すると、例えば、示されたキーワード(身分)を用いていない記述や、キーワードが適切に用いられていない記述が多くみられる。これは、問題を読み取る力や資料を根拠にして課題を追究する力が十分に身に付いていないことが原因と考えられる。今後は、課題に対して、資料などから調べ、考えたことを自分の言葉で書くことを一層重視した学習が必要である。

1の2「古墳づくりの様子を示す絵資料から、当時の社会の様子」を読み取る問題、2の4「東大寺の大仏建立のために、人や物資が集められたこと」を読み取る問題の正答率は80%以上であり、資料から事実を読み取る力は高まってきている。しかし、6の3「天皇の権力の強い大日本帝国憲法の内容を示している資料」を読み取る問題の正答率は38%であり、6年生の全問題の中で最も低い正答率である。誤答を分析すると、大半がイであることから、学習指導要領に示されている「明治天皇の名による五箇条の御誓文の発布」「明治政府が大日本帝国憲法を制定し、立憲政治を確立したこと」の理解が十分でなかったり、明治維新や日本の近代化に関する資料の内容の読み取りに課題が見られたりするなど、近現代史の学習が十分でないと考えられる。

3の2「鎌倉時代の政治の中心地の地図上の位置」を示す問題では、昨年度の類似問題と比較すると正答率は10%程度上がっているが、なお60%を下回っている。歴史学習においても、各時代の政治の中心地や主要な地名等の位置を、地図帳で繰り返し確認することが必要である。

(3) 「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> 4の2 4の3

豊臣秀吉
秀吉は、検地や
刀狩を行うこと
によって、 X 。

資料2

4 2 資料2の様子の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を の中に書きましょう。
ア 田畑のよしあしや実際に耕している人を調べている。
イ 農民から武器を取り上げ一揆を防いでいる。
ウ 騎馬軍と戦うために、馬防ぎのさくをつくっている。
エ 安土城を建てるために土地のようすを調べている。

3 ひとみさんは、豊臣秀吉が天下統一に向けて何を行ったのかについて考え、ノートの X に続きを書きました。あなたなら、どのように続きを書きますか。「身分」ということばを使って の中に書きましょう。

<結果> 4の2 正答率 59.0%(正答…ア) 4の3 正答率 42.3%(正答…略)

<分析>

4の2は、「資料から、豊臣秀吉の行った検地が、どのようなことで、どのような目的で行われたのかを考える力」をみる問題である。昨年度の類似問題の正答率が43.2%であったことから、資料を手がかりとして考える力は高まってきていると考えられる。誤答を分析すると、大半が、イを選択していることから、「豊臣秀吉の行ったことは、検地と刀狩」という言葉の理解にとどまっており、「検地の様子」を示す絵資料を読み取れずに、「武器を取り上げた刀狩」を選択した児童が多いと考えられる。また、4の3の正答率が、42.3%であることから、検地や刀狩が何を目的として行われ、どんな影響があったのかなどが十分に分かっていないと考えられる。今後、学習指導要領の「豊臣秀吉が検地や刀狩などの政策を行ったことを取り上げて調べ、資料から豊臣秀吉の意図を考える学習を通して、戦国の世が統一されたことが分かるようにする。」という内容を踏まえ、調べ、考える学習を充実させる必要がある。その際、教科書に掲載された資料を活用し、教科書の記述と資料を確実に結び付けるようにする必要がある。

思考・判断する力をみる問題の正答率の平均は、67.1%（昨年度54.7%）であり、確実に高まってきている。今後も、資料を丁寧に読み取り、根拠を明らかにして考え、判断し、表現する力を育成する指導の充実が一層求められる。

3. 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るという観点から、指導内容が地域や児童の実態を踏まえ吟味、精選されているか見直しを図る。

- ・学習指導要領の目標と内容を十分に理解し、児童や地域の実態を踏まえ、事例や対象の適切な選択や指導内容の精選、指導時数等の配当が行われているか見直しを図る。
- ・事例を選択する学習や人物を扱う学習では、その事例や人物の働きと関連させながら、その時代の概要や我が国の歴史の大きな流れの理解を図ったり、他の事例の学習に転化できる学び方を身に付けたりできるようにする。（扱う人物については、小学校指導要領 解説 社会編参照）
- ・近現代史の学習の時間を十分に確保する。特に、明治時代以降の学習の理解が十分なされるように配慮し、指導内容や指導時間に偏りが生じることがないようにする。また、文化等について指導する時間を十分に確保するとともに、時代の大きな流れの理解がより深まるよう、年表を用いて、時代の流れを指導する時間を十分に位置付けるようにする。
- ・地図帳や分布図を用いる学習を歴史学習においても繰り返し行い、有効性・有用性に気付いたり、学んだ力を活用したりできる時間を位置付ける。

(2) 指導方法の工夫改善

問題解決的な学習の充実を図ることで、課題に対して様々な資料等を活用して調べ、考えたことをまとめ表現する学習を行うように努める。

- ・資料を読む視点を明確にして、具体的、系統的に指導してきた成果があらわれてきている。今後も、資料活用の技能の段階を踏まえて指導し、児童にその技能を確実に身に付け、読解力を高めるよう努める。その際、教科書に掲載された資料を十分に活用する。
- ・表現する力を一層付けるために、調べたことや自分の考えをまとめ、目的に応じた方法で表現（資料や年表の作成など）したり、多様な資料を活用して課題について調べ、テーマを設定して自分の考えを記述したり、キーワードを使ってまとめたりするなどの指導をより一層充実させる。
- ・確かな学力が身に付くよう、評価規準や個人カルテ等を活用し、個の学習状況の把握と分析に努め、個に応じた指導・援助の手立てを具体的に指導し、確実に見届ける。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・学習環境の工夫について、我が国の代表的な遺跡や文化財などの観察・調査などの学習において、実感をもって事実をとらえることができるよう、博物館や郷土資料館等の活用を図るとともに、実物や具体物、写真資料などを積極的に活用する。
- ・学習環境の工夫について、学習している時代を年表を用いて確かめたり、学んだ地名を地図帳を用いて確かめたりすることなどができるよう、年表や地図帳を毎時間の授業で十分に活用する。
- ・学習集団の育成について、自分の考えや思いを素直に表現したり、仲間の意見を共感的に受け止めたりして、仲間と楽しく調べ、考え合うことができるようにする。そのために、個の調べ方や表現の仕方、社会的なものの見方や考え方のよさを教師が的確に価値付け、どの児童も仲間との学び合いに充実感をもつことができるようにする。